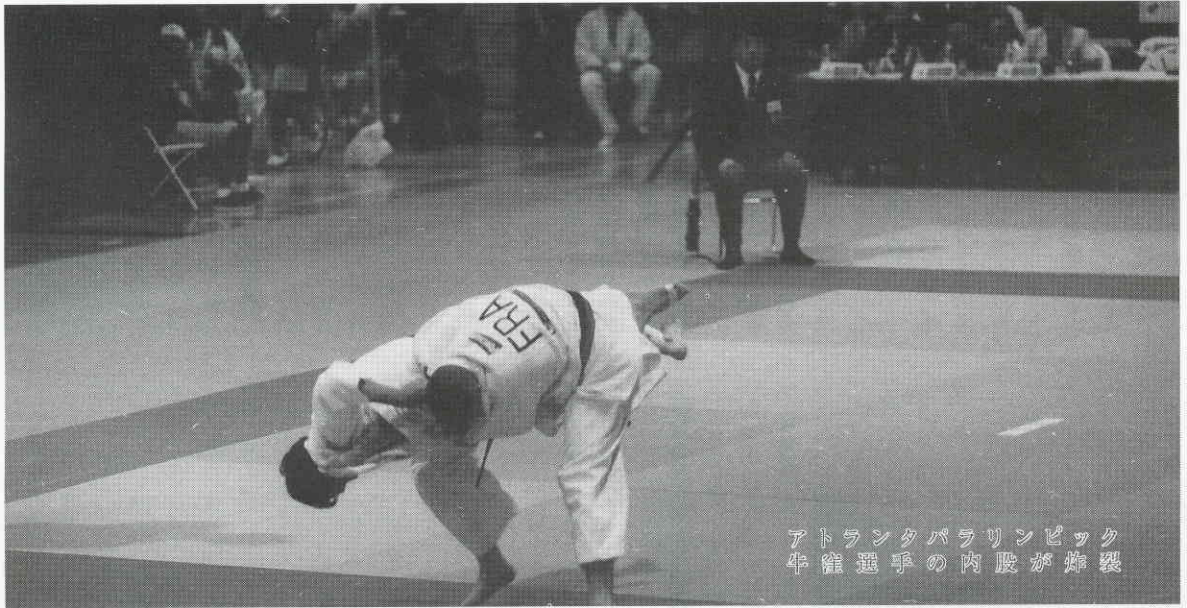


スポーツ

川越

発行 川越市体育協会



アトランタパラリンピック
半端選手の内股が痺裂

障害者スポーツを考える

アトランタパラリンピック日本選手団主将 牛窪 多喜男

私は、ソウル、バルセロナ、アトランタのパラリンピックを始め十回の国際身体障害者大会に参加して、年々盛んになっていく大会の姿に驚かされる。

参加国や出場選手の数はもとより、競技に対しての意識が「勝つ」というのはっきりした目的になり、リハビリテーションという意識は本大会においては無くなったと言っても良い。この競技者としての意識改革は、身体障害者スポーツの国際大会を数多く開いたということもあるが、世界の人々、特にヨーロッパやアメリカなどの先進国と呼ばれる国々が経済的な行き詰まりなどにより、経済重視の考え方から「心」の時代へ変わりつつあることが重なって急速に競技性が強まったように思う。

身体に障害がありながらも人間の限界に挑戦するという姿に人々の感動を呼べる時代になったのではないかと。アトランタパラリンピックの競技会場を訪れた観衆の熱狂的な声援からもそれを感じた。

本大会で強く感じたことは、日本ではリハビリテーションの考え方で身体障害者スポーツを意識しているために、コーチや監督及び役員に、パラリンピックに選手として出場経験した人がいないということである。完全参加と平等の精神からも、オリンピックでは常識となっている、選手経験者からのコーチ・監督への道も考えなければならぬ時期であろう。ヨーロッパやアメリカなどの国々の選手団には必ず引退した名選手がおり、その国を代表してパラリンピックの「顔」となり、国際交流を円滑にしている。パラリンピック選手団を改革しなければ、選手としての誇りと、自立した競技者を数多く育てるのは難しい。

アトランタパラリンピックはその曲がり角に来ている。本大会で好成績を上げた選手は高い年齢層であり豊富な国際大会経験者であるので、これ次世代に繋げたい。

また、パラリンピック選手団には様々な障害を持つ者がいるのに全スケジュールを全体で行動するのは、選手にとって大きな負担がある。各選手が競技者として、試合に向けて十分に力を出し切れる個々の調整が出来るスケジュールが、組める体制を作ることが大切である。

ともあれ、引退を決意した本大会で「金」という成績を残せたことは大変嬉しく思う。今後は指導者として後人の指導と視覚障害者への柔道の普及、そしてシドニーパラリンピック大会へよりよく繋げるために障害者スポーツの認識の変革と改善をして行こうと思う。

五十年の軌跡

川越市体育協会創立五十年を迎えて

平成九年、川越市体育協会は創立五十周年を迎えることになりました。

かえりみまずと、川越市体育協会は敗戦直後(昭和二十一年)、市民生活の極度に困窮した社会状態の中で体育を通して、市民の明朗化を図るべく、スポーツ愛好者有志が集い、既存の「大日本体育会川越支部」を発展的に改称し「川越市体育協会」として昭和二十三年二月に発足いたしました。

昭和二十年代は組織の基礎づくりを重点に活動が続け、昭和三十年に市村合併し「社会体育の振興」という課題も加わりスポーツの需要は急激に増加しました。昭和四十二年に埼玉県国体川越会場として、準硬式野球、バレーボールを担当し、昭和四十七年には市制施行五十周年に合わせて体協二十五周年の記念行事を行い組織の強化充実にあつた四十年代。昭和五十年にはスポーツ少年団を結成し、少年スポーツの育成に入り、時代背景とともにスポーツ需要の量的増加と質的变化に対応するため、市民ニーズに対応する施策の展開を進めてきた五十・六十年代。平成

期日は平成十年一月二十四日(土)の午後一時より開催します。

式典では、体育功労者、優秀選手、それとここまでの永い間、ご支援を頂いた方々へ感謝状を贈る表彰式を併せた式典に致します。

記念講演の講師は記念事業委員会、五十周年にふさわしい方々を現在入選中です。ご期待下さい。

祝賀会にはスポーツ関係者が一同に会し、リラククスした雰囲気の中で、過去の、そしてこれからの川越市のスポーツを大いに語り、コミュニケーションを図りたいと思います。

五十年に一度のことですので、総務委員会全員張り切っております。ご支援よろしく申し上げます。

記念事業委員会

委員長 岡野 安夫

創立五十周年二十九団体と増加し、高齢化社会となる二十一世紀に向けて、これからの川越市のスポーツ活動を体育協会として、どの様に捉えて行くのか。

生涯スポーツが叫ばれ、健康的スポーツレクリエーションが多様化されて行く中で、私達体育協会の役割は、大変なものとなるでしょう。

記念行事として、実行委員会を組織して三委員会を構成した中の

私達の記念事業委員会は、どんな事業を節目の年の記念にするのか、委員の皆様から多くの提案がなされました。講演会・公開演技・市民体育祭の記念大会・市民大運動会・東松山川越間駅伝競走・市内一周マラソン・スポーツ宣言都市の陳情・川越運動公園にモニユメント、ブロンズ像の設置・記念植樹・総合体育館に体育協会コーナーの設置・施設見学一泊研修・役員帽子の製作等々 各委員の皆様より、数多くの行事案が出されました。

少ない予算でより効果的な事業を行いたいと要望があるなかで、決定するに至らず代表者会議にご意見を伺いながら次の様な行事にまとめさせて頂きました

『市民体育祭の記念大会』
『スポーツ宣言都市への陳情』
『少年野球教室』
『スポーツシンポジウム』
『記念講演会』

今後、委員会で協議し、内容等についてまとめ、より効果的な記念事業にしたいと思います。

記念誌編集委員会

委員長 吉田 満

記念誌編集委員会は、体協五十周年のあゆみをまとめ、二十一世紀「生涯スポーツ社会」の活動の

礎となる記念誌を編集することを目的に、近隣市町村の記念誌を参考資料として内容等を検討し、具体的な編集方針を話し合つて編集作業を進めています。

現在までに検討し決定した主要方針及び内容は、記念事業関連は別冊とし、本誌は記念式典当日に配付できるよう十二月中の完成を目指します。規格は活字の大きさや写真の掲載スペースを考えてA4版とし、別冊を含め全体で三百二十ページとします。表紙は厚紙布でケース付きとします。

主な内容は次のとおりです。

- 各方面の方々のあいさつ及び祝辞
- 歴代会長の紹介
- 川越市の体育行政
- 体育協会五十年の足跡
- 各種受賞者の一覧
- 世界大会・全国大会の優勝・入賞者、甲子園出場校等の紹介
- 「スポーツ埼玉」「スポーツ川越」等広報紙
- 写真集
- 市民体育祭
- 川越ウォークソン大会
- 各加盟団体のあゆみ
- 第一次原稿依頼として「各加盟団体のあゆみ」を一団体二ページ写真三・五枚を条件として、六月中に提出をお願いしております。

総務委員会

委員長 竹内 康雄

川越市体育協会の五十周年記念に、式典、記念事業、記念誌発行の三つの柱が決まりました。

総務委員会は式典関係を担当し、式典、記念講演、祝賀会の三分構成で準備を進めています。

第49回市民体育祭

平成八年度第四十九回市民体育祭は、七月二十一日のウォークラリーを皮切りに、三月八日のスケートを最後に全29種目が無事に終了しました。

本年度も昨年同様、九月十五日にスポーツ少年団の体育祭と併せて、川越運動公園陸上競技場において「総合開会式」が盛大に開かれました。二十九団体の入場行進に続いて、大久原教育長の開会宣言、舟橋市長の挨拶の後、小山市議会議長よりご祝辞をいただきました。

デモンストレーション種目として、昨年度は雨天のため実施できなかった各団体の特徴を生かしたデモンストレーションリレーも初めて実施することができました。

第49回市民体育祭参加者

	参加者					合計
	少年	青年	婦人	壮年	その他	
野 球	0	青年-330	1	社年	0	330
卓 球	0	102	113	78	11	304
ソフトテニス	68	26	90	33	1	218
バレーボール	130	270	745	50	0	1195
バスケットボール	480	585	15	0	0	1080
サッカー	1150	638	65	30	0	1883
柔 道	367	81	23	45	0	516
剣 道	154	10	8	28	0	200
弓 道	18	30	50	40	35	173
空 手 道	66	48	2	11	0	127
陸上競技	550	18	1	35	0	604
水泳競技						
ス キ ー	19	46	24	68	0	157
ク レ ー	0	3	0	33	6	42
ライフル	0	1	2	26	1	30
スケート	40	3	0	4	0	47
体 操	228	0	0	0	0	228
小 体 連	1022	0	0	0	0	1022
中 体 連	6512	0	0	0	0	6512
高 体 連	2419	0	0	0	0	2419
レクリエーション	26	8	500	63	182	779
バトミントン	0	70	84	64	0	218
少林寺拳法	133	8	4	4	0	149
ソフトボール	0	93	346	3094	153	3689
テ ニ ス	0	864	426	44	0	1334
ボウリング	0	5	16	17	2	40
なぎなた	15	0	40	1	0	56
ラグビー	220	90	0	30	0	340
ゲートボール	0	0	0	0	200	200
合 計	13617	3109	2664	3908	591	23889

付記 少年=小・中・高校生
 少年=30歳未満
 青年=30歳以上60歳未満
 婦人=61歳以上
 その他

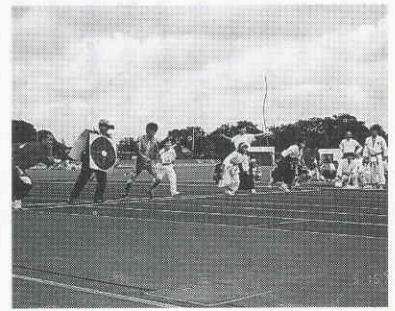
町内体育祭については、九月から十一月の日曜日を中心に実施されました。

・実施自治会 一七四自治会

今後、生涯スポーツの振興と一層の普及を図るなかで、健康で明るく豊かな市民生活を築くため、川越市民のスポーツの祭典として

本年度の市民体育祭参加者数は、二三八八九名で、昨年度と比較すると一八五名の減少になりました。これは、渇水のため水泳競技が開催できなかったためと思われます。

また、各種目別に見ますと、今年度新たに市民体育祭に参加したラグビー、ゲートボールは合計人数が五〇四名、テニス、ソフトボール、バレーボール、柔道等についても増加が見られます。今後一人でも多くの市民体育祭への参加と競技力の向上等が期待されます。



・会場 数 三〇会場
 ・全参加者数 四二四一七名

この町内体育祭も含めると、本年度市民体育祭に参加された方は延べ六六三〇六名になり、実に川越市民の五人に一人の方が参加したことになります。

スポーツ教室

定着できるように努めていきたいと思えます。

平成八年度スポーツ教室が、川越市教育委員会・川越市体育協会・川越市施設管理公社の共催により開催されました。今年度は一般対象六種目、女性対象五種目、少年少女対象四種目の合計十五教室を実施しました。

今年度は新たな試みとして、「ジュニアバレーボール教室」を実施しました。バレーボールは平成十六年に開催される、埼玉国体で川越市が会場となる種目です。この教室に参加したことでバレーボールに関心を持ち、埼玉国体で活躍する選手が育てば、そんな思いを込めて実施しました。

また、例年市民プールを利用して実施していた「女性水泳教室」は、川越スイミングスクールのご協力により、初めて温水プールで実施できました。天候気温に左右されることなく、参加者にも大変好評でした。

これからも、「生涯スポーツ」の推進を基本に据え、皆様のニーズに応えられるような教室を開催していきたいと思えます。

No.	教室名	開催日程	会場
1	卓 球	4/11~6/20 毎週金曜日	川越市市民体育館
2	テニス・1	5/12~6/30 毎週月曜日	運動公園テニスコート
3	テニス・2	5/12~6/30 毎週月曜日	運動公園テニスコート
4	スケート	1月中旬	東武スケートセンター
5	ターゲットボール	7/4~8/8 毎週金曜日	川越市市民体育館 他
6	太極拳	9/12~11/7 毎週金曜日	川越市市民体育館
7	女性ソフトテニス	5/7~6/11 毎週水金曜日	城下テニスコート

No.	教室名	開催日程	会場
8	女性3B体操	5/23~12/5 金曜日	高階南公民館
9	女性ボウリング	6/6~6/27 毎週金曜日	川越ファミリーレーン
10	女性水泳	7月中旬	川越スイミングスクール
11	ジュニアバレーボール	8/1~8/8	川越市市民体育館
12	ジュニア水泳	8月中旬	未定
13	ジュニアスケート	2月中旬	東武スケートセンター
14	ジュニアスキー	3/13・14・15	群馬県草津スキー場

平成九年度スポーツ教室実施予定

選手達!

中の選手を紹介～

第47回全国高等学校選手権大会 冠
第51回ひろしま国体 二

星野女子高等学校

杉森 美保



私はインターハイ決勝進出という目標を心に抱きながら、日々練習に取り組んできました。二年生時までは

百メートルと二百メートルでインターハイに出場しましたが、決勝には残ることができなかったため、いつか目標が現実へと変わる日を夢見ていました。そして、高校生活最後となる三年生の春から、四百メートルにも挑戦してみようということで大大会に出場してみようとした。自分でも驚いてしまうような記録が出てインターハイの切符を手に入れました。

インターハイでは、全国ランキングがトップだったこともあり、とても緊張しました。そんな時、周りの友人たちが緊張している私を見て、心を落ち着かせてくれました。そのおかげで、私は四百メートルでインターハイ優勝という目標以上のものを達成することができました。目標が現実になる瞬間がついにやって来たのです。私はこの瞬間、陸上競技を続けてきてよかったと、心の底から思いました。



この瞬間、陸上競技を続けてきてよかったと、心の底から思いました。

国体でも、出発当日に友人が駅まで来て、私を見送ってくれました。渡された手紙を電車の中で読んでみると、不安でいっぱいだった気持ち、少し和らいだような気になりました。

私にとって、この大会は高校生活最後の試合だったので、悔いの残らないように精一杯走ろうと心掛け、その結果、少年女子A四百メートルで優勝することができました。このような結果を出すことができたのも、辛い練習を一緒に頑張ってきた友人たちの応援があったからだと思います。また、陸上競技を通して、努力すれば後で喜びとなつて返ってくるのだということを学びました。今後そのような気持ちを忘れずに、頑張っていきたいと思えます。

第52回くしろ湿原国体
第51回日光杉並国体

川越市スケート連盟

越智 加津則



一秒の百分の一を争う、それがスピードスケートの世界である。剣路の国体では、二種目大会新で制覇することができた。

本番の国体二種目予選から五分、合わせてたつた七分のドラマのためと、百分の一秒でも短縮するために、ずっと四月からトレーニングを積んできた。高校、大学とずっとである。決して楽なことではない。現在は昼間の会社勤めの後、週三六回のペースでトレーニングをしている。孤独のトレーニングは、はっきり言って嫌いである。それでも何故やるのか? 自分の中に離れないイメージがあるからだと思います。優勝した自分の姿、喜ぶ母の姿、妻・子供三人の姿でもある。そのイメージが私を奮い立たせてくれる。「勝利はセンスが有るから」と言われたことが有るが、決してそうではないと思う。監督・コーチの意見を自分なりに試行錯誤しながらトレーニング

二連覇の快挙

グを確実に自分のものにして、初めて良い結果が出るものだと思う。「今に見ている?」そんな私の信念があるから、毎回の孤独のトレーニングを続けられ、その結果が実を結んだと思う。

スケート競技はマイナスの気温の世界である。寒い剣路出身の私でもやはり寒い。そんな中、母は毎年国体に出る私を応援に来ることが、唯一の楽しみなのである。

私はこれからも孤独なトレーニングを続ける。しかし、喜びに変わる瞬間を求め、母が長生きをし、喜ぶ顔を見続けるため、川越スケート部の繁栄のため、私はスケートを続けたいと思う。スケートは私のロマンなのである。



くしろ湿原国体にて、一番右が越智選手

活躍する

～川越市内で活躍

部活動紹介

川越工業高等学校陸上競技部

顧問 市川 浩

本校は、繊維デザイン科、化学技術科、建築科、機械科、電気科の五科からなり、本年度で創立九十周年を迎えた伝統ある工業高校です。

その中で陸上競技部は昭和四十年代に黄金期を経て、その後多少は停滞いたしました。近年第二期黄金期を迎えたと言っても過言ではありません。昭和四十年代にはその後、モスクワオリンピック百m候補選手となった原田彰選手や、県大会で百・二百・四百mで三冠王となった辻一正選手など全国レベルの選手が多数おりました。



最近では、昨年女子百mにおいて砂中出身の神田めぐみ選手が広島国体で優勝、全国高校総体では同種目で三位、二百mで二位という結果を残しています。また、その前年には高階西中

学校出身の君島光紀選手が八百m、千五百mで全国高校総体に進み、健闘いたしました。

平素の活動は、本校のグラウンドが狭いため、鶴ヶ島(川越市鯉井)の東洋大学川越校舎の陸上競技場(四百mトラック)を大学側のご好意によりお貸しいただき、トレーニングをしております。授業が終わわり、電車や自転車での移動になりますので、練習開始は四時三十分頃になり、六時から六時三十分頃までの活動になります。練習時間としては短いほうかと思いますが、何とか工夫しながら取り組んでいます。



東洋大学グラウンドにて

大学生のスピードアーな動きや、集中した練習を見ながらの活動は生徒の意識向上にもつながり、試合の好結果にも直結していることを考えると、大学関係者には本当に感謝しております。

現在、短距離、中長距離のみならず、棒高跳びや投てき、跳躍等でも県大会で入賞できるまでに力がついてまいりました。これも、市内や近隣の中学校

の顧問の先生方のご理解と、ご支援があつてこそと、感謝しております。今後川越工業の伝統におこる事な

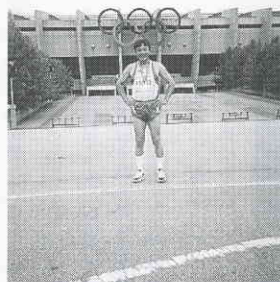
陸上競技

アジア大会で銀メダル

三段跳

川越陸上競技協会

川 澄 映



く、更なる飛躍を目指して生徒と共に努力する所存です。ご声援をお願いいたします。

オリンピックスタジアムへ、十五カ国二百名参加の閉会式。その後、ハチーといやが上にも盛り上がる。

二日目大会当日、三段跳は十一時三十分を確認してグラウンドへ！素晴らしい競技場だ。震える思いでウォーミングアップ、外国選手と途中擦れ違いつつながらニッコリ挨拶、言葉は通じなくても気持ちだけは通じる。一人が近づいてきて「ユニフォームデザイン「一番」と日本のユニフォームを褒めてくれた、握手して健闘を誓い合う。そして競技開始、七月の千葉大会以来、恐る恐る助走をスタート、ホップ、ステップ、ジャンプ11m19cmを跳んだ。右足も痛くない！二位が10m台。この分ならメダルに手が届くと気分的に楽になる。後半強い雨と寒さに無理をせず、四回、五回とパスし六回目11m39cmを跳んで二位となる。パスの間にインドの選手が11m43cmを跳んだので「銀」メダル。銀でも凄く充実した気分であった。足の痛みもせずに跳べたことに感謝！やり残したことが二年後の沖縄大会の目標となるのだから良しとする。

一九九六年念頭に夢を見た。一昨年全日本大会優勝したことで、今年のソウルでのアジア大会にメダル取を奮闘！七月にアキレス腱を傷めてしまったが職場でも宣言をしているので後には引けない。各大会をパスして治療に専念。九月に練習再開、仕事の関係からトレーニングは深夜となる。バーベルを担いでのスクワットでアキレス腱を強化。なんとか間に合った。そして迎えたアジア大会、十月二日に成田空港に日本選手二百五名が集合し、団長の挨拶を受け出発。千三百万人(全人口の二十八%)が住むソウルは大都市である。交通渋滞も凄く、でも日本車は一台もない。宿舎で着替え



二月十六日、川越市やまぶき会館において四百名余りの聴衆者を得て、平成八年度スポーツ講演会が盛大に開催されました。講師には、ニッポン放送シヨアアップナイターの野球中継でお馴染みの深澤弘アナウンサーをお招きし、深澤先生の三十五年間のアナウンサー人生をおして懇意にしている長嶋巨人軍監督や落合博満選手の F A (フリーエージェント) の秘話などについて話されました。講演の一部を紹介いたします。

○監督の仕事とは：
長嶋監督が言うには、監督はとして一番大切なことは、作戦や戦術を練る事ではなく、どういうチームでベナントレースへ乗出していくのかということ、つまりチームの編成、戦略が大切だということです。会社に置き換えると、「どういう人材を集めて、その人材をどう適材適所に配備して、この人材に

のフロントとの間が気ままずくなり落合選手が巨人を出てしまおうと、何が何でも清原選手が必要になつてくるのです。そこで巨人軍は長嶋監督に全ての下駄を預けました。長嶋監督の考えでは「落合残留清原獲得」でした。清原選手がこの先、巨人の四番を打つとなると松井選手が安心して三番を打てることになる。落合選手には残って清原選手に、四番バッターとして

スポーツ講演会

平成 9 年 2 月 16 日 (日)

講師 深澤 弘 先生
ニッポン放送専属アナウンサー

演題 スポーツアナウンサーから見たスポーツ界

はこのセクションでどの位の事を要求するか」ということなのです。この戦略がチームの強弱をを左右するということなのです。

○落合残留 清原獲得
私はまさか巨人が落合選手を切るとは思ってもみませんでした。当初、巨人軍は清原選手を積極的に獲得する考えではありませんでした。しかし、落合選手と巨人

の帝王学を教えて欲しいと考えていました。そこで長嶋監督と落合選手で会談し、監督は自分の考えを落合選手に言ったそうです。しかし落合選手は「最後の一年二年をまだまだやれる僕が、控え選手として耐えられる」と言って自由契約選手として巨人軍を退団することになりました。

○四つことに耐える
長嶋監督は、日常生活の中でもベンチで野球をやっている時にも四つの事に耐える、つまり「四耐」を頭から離したことが無いと言うのです。

- (1) 世の中の冷たさに耐える
 - (2) 人の厳しさに耐える
 - (3) 閑に耐える
 - (4) 世の煩わしさに耐える
- この四つことに耐えて、目一杯努力をする。そうすれば自然によい結果が出るという程世の中は甘くない。だから、更によい結果を求めるために、もう一段身を削るような思いをして努力する。だから僕は結果はしょうがないと言うのです。

先生の熱のこもった講演は、時間を忘れ、大幅に予定時間を超過してしまいました。紙面の関係で詳しく紹介できないのが残念です。



本年度、第四回になる、スポーツ指導者養成講習会を川越市教育委員会・川越市体育協会の共催により九月十七日・二十四日・三十日・十月三日の四日間にわたり、市民体育館・やまぶき会館・北公民館を会場に開催しました。例年にならい「指導技術の向上を目指して」をテーマに開催したところ、八十九名の申込みがありました。

第一日目は昨年に引き続き日本体育協会公認スポーツドクター瀬戸幹人先生をお迎えしました。内容は「内科的疾患とスポーツマン」と題し、スポーツ医学に関する講義をいただきました。スポーツによる体内に及ぼすホルモンの影響、運動中の体温上昇による障害などの話を中心に、昨年のスポーツ医学総論を更に具体化した内容でし

た。

第二日目は、実技でソニー企業へ講師を依頼し、まずテーピングの効果、必要性、筋肉の構造等を説明していただきました。次に「下腿・大腿部位の肉離れ再発の予防」の為にテーピングを実際に行いました。

第三日目は、東京家政学院短期大学より吉田博幸先生をお迎えし、スポーツ生理学「エネルギー」と題し、人が何故動くことができるのかをスライドを用いながらわかりやすく講義をいただきました。

最終日は、東洋大学より穂田清先生をお迎えして、「競技スポーツとレクリエーションスポーツ」とレクリエーションで講義をいただきました。スポーツとは何か、レクリエーションの言葉の意味などについて、長時間にわたりご講演をいただき、四日間の講習会は終了いたしました。

平成九年度、当体育協会が創立五十周年を迎えるに当たり、この指導者養成講習会の内容も更に充実したものにしていきたいと考えております。

是非、皆様の受講をお待ちしております。

た。

第二日目は、実技でソニー企業へ講師を依頼し、まずテーピングの効果、必要性、筋肉の構造等を説明していただきました。次に「下腿・大腿部位の肉離れ再発の予防」の為にテーピングを実際に行いました。

第三日目は、東京家政学院短期大学より吉田博幸先生をお迎えし、スポーツ生理学「エネルギー」と題し、人が何故動くことができるのかをスライドを用いながらわかりやすく講義をいただきました。

最終日は、東洋大学より穂田清先生をお迎えして、「競技スポーツとレクリエーションスポーツ」とレクリエーションで講義をいただきました。スポーツとは何か、レクリエーションの言葉の意味などについて、長時間にわたりご講演をいただき、四日間の講習会は終了いたしました。

平成九年度、当体育協会が創立五十周年を迎えるに当たり、この指導者養成講習会の内容も更に充実したものにしていきたいと考えております。

是非、皆様の受講をお待ちしております。

た。

第二日目は、実技でソニー企業へ講師を依頼し、まずテーピングの効果、必要性、筋肉の構造等を説明していただきました。次に「下腿・大腿部位の肉離れ再発の予防」の為にテーピングを実際に行いました。

第三日目は、東京家政学院短期大学より吉田博幸先生をお迎えし、スポーツ生理学「エネルギー」と題し、人が何故動くことができるのかをスライドを用いながらわかりやすく講義をいただきました。

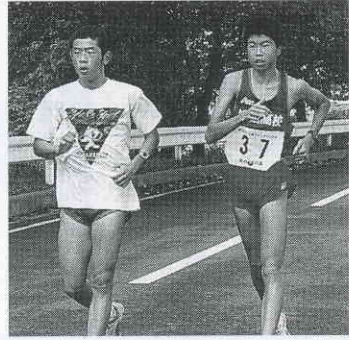
最終日は、東洋大学より穂田清先生をお迎えして、「競技スポーツとレクリエーションスポーツ」とレクリエーションで講義をいただきました。スポーツとは何か、レクリエーションの言葉の意味などについて、長時間にわたりご講演をいただき、四日間の講習会は終了いたしました。

平成九年度、当体育協会が創立五十周年を迎えるに当たり、この指導者養成講習会の内容も更に充実したものにしていきたいと考えております。

是非、皆様の受講をお待ちしております。

スポーツ指導者養成講習会

第15回 川越ウォークソン大会



務つけ(現在中止)、コースの変更等、その年ごとの特色を盛り込みながら定着期を経て、今日の記念大会を迎えました。

今回の大会をどのような大会にするか、計画・立案の段階から、実行委員会・総務部会・競技部会の各セクションで熱心な討議を重ねて参りました。

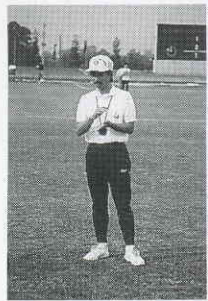
記念大会のイベントとして

- 一、「川越ウォークソン大会講習会」を開催して、正しい歩き方の普及をする。
- 二、小・中学生部門の成績を(順位、記録)発表しない。
- 三、各種目ともスタイル賞を増やす。最優秀スタイル賞を表す。

十一月三日、文化の日の好天のもと、「第十五回川越ウォークソン大会」(川越市・川越市教育委員会・日本ウォークソン連盟・毎日新聞社主催)は、川越運動公園陸上競技場に、県内外千五百七十名の参加者を集めて開催されました。

「正しく・美しく・速く歩こう」をテーマにスタートしたこの大会を振り返ってみると、第一回大会から第十回大会までは、市役所前スタート・ゴールの「蔵造り町並みコース」ウォークソン、第十一回以降は、陸上競技場をスタート・ゴールの「田園コース」ウォークソンと言えます。

この間、競技種目の変更、小・中学生の事前講習会への参加の義



2 / 19
「正しく歩くには」
日本歩け歩け協会主任
指導員 奥野清歩先生



1 / 16	「健康と運動」 東京学芸大学教授 有吉正博先生	回目	内容・講師
--------	-------------------------------	----	-------

などを行いました。特に講習会は、四回実施、延べ六十八名の方が受講されました。概要は、次の通りです。

3 / 23
「競技の規則」
日本ウォークソン連盟
理事長 石黒昇先生



4 / 26
「速く歩くには」
王歩アスレチッククラブ
会長 松村洋子先生



各回の先生方は、運動生理学・力学をわかりやすくお話しされ、理論だけに終止せず、日常生活の中で、いかに楽しく、健康的に歩くかのノウハウを実技を通して教えていただきました。

特に、運動が脳を刺激し老化防止に役立つこと。自分のライフ・スタイルの中で無理のない時間帯に歩くこと。腰を回転し、自分の身長七分の四を目安にした歩幅で、膝を曲げずに踵から着地する「美しく・速く歩けるようになる」

ことなど、学ぶことが多くありました。受講者の方の多くから「内容が良かった。毎年あるといいですね。」という感想をいただきました。

競技種目の記録大幅更新

- 競技の部男子 20 km
1位 藤野原稔人 1時間31分24秒
- 競技の部女子 10 km
1位 笹木かおり 56分53秒
- 最優秀スタイル賞受賞者
(一般男10 km) 小川清一郎 (一般女10 km) 前田佳美子 (一般男5 km 59以下) 田部井光男 (一般女5 km 59以下) 廣松敏子 (一般男5 km 60以上) 堀井高博 (一般女5 km 60以上) 高橋栄子 (小学男) 金子敦司 (小学女) 澤村玲美 (中学男) 関根勇喜 (中学女) 尾作直美 (親子) 高橋明美・拓

- シルバー賞 (80歳以上) 杉田作三・粕谷武男・佐藤十五郎・木村正紀・宮崎義信・岡田健次・武田隆治・室岡勝・吉野廣佑・猪鼻寿之・戸田やま・谷村ますみ・石川ミネ

※ ※ ※ ※ ※
本年は参加者数がやや減少しましたが、記録や内容の面では充実していたと思います。来年度も、是非みんなに参加しましょう。

団 体 だ よ り

川越市ラグビーフットボール協会

わが川越市ラグビーフットボール協会は、平成八年度から川越市体育協会の仲間入りをさせていただいた、体協で一歩新しいスポーツ団体です。

川越市内には、少年ラグビースクールⅡ1、高校Ⅱ6、大学Ⅱ2、社会人クラブⅡ2の合計11チームがありますが、試合に使用できるグラウンドは大学が所有しているものしかありません。そのため、公式試合どころか、普段の練習の場を確保することにさえ苦労するのが、川越のラグビーの現状なのです。

川越市ゲートボール連合会

日本ゲートボール連合が日本体育協会に平成二年に加盟し、川越市ゲートボール連合は平成八年に川越市体育協会に加盟することができました。ゲートボールが市民スポーツとして、また生涯スポーツとして認められたことは、大変な喜びであり、大きな励みになっています。

このスポーツは高齢者にとつては唯一のものとして普及、発展しており、健康増進や仲間づくりなど生き甲斐づくりに効果を発揮しています。小さな広場の片隅で細々と行われてきたゲートボールな

そこで、市に対してラグビーの出来るグラウンドの建設を働きかけていこうという趣旨のもとに、大学を除く市内の全ラグビーチームが参加して、平成七年十



月に当協会は設立されました。

皆さんは、「ラグビーは体格のよい若者だけのスポーツ」だと思つてないでしょうか。今、当協会の下では、三歳の幼児から六十七歳の老紳士まで、元気にプレーを楽しんでいます。ラグビーもそれぞれの年齢や体力に合わせた楽しみ方が出来るのです。

私たちは、こうした幅広い年代のプレーヤー達が、恐怖心を持つことなく安全で楽しくラグビーが出来るような環境づくりと指導とを活動の柱として、川越市におけるラグビーフットボールの普及と健全なる発展を目指しています。

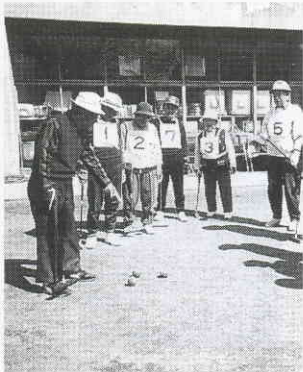
れど、今や川越における競技人口も、およそ九十のチームを有し、千名を超えております。

熟年パワーをもつて、月例大会を中心に、指導研修会、技術・初心者講習会などで活動し、地区大会や県大会などにも出場して大活躍しています。特にレディースの活躍には大きな期待をしています。

しかし、最近の問題として、競技者の減少傾向が目立ってきています。その原因を究明し、かつその対策が急務となっています。

ゲートボールは老人だけのスポーツではありません。小学生から高齢者まで、

誰もが楽しめる頭脳プレイと心地よい運動をミックスしたスポーツであることを啓蒙していく必要があります。スポーツ愛好の体協の皆さんにも絶大なる協力をを切にお願いいたします。(小林充記)



埼玉体育賞受賞者

◎功労賞

牛窪多喜男(体育協会推薦)

◎野口記念体育賞

杉森 美保(星野女子高校)

◎優秀選手賞

杉森 美保(星野女子高校)

全国高等学校総合体育大会

陸上四百M 優勝

・神田めぐみ(川越工業高校)

全国高等学校総合体育大会

陸上二百M 準優勝

・神田 大介(川越工業高校)

全日本アマ自転車選手権大会

オリリンピックスプリント

準優勝

◎県民総合体育大会

市町村対抗(市の部)

川越市 男女総合 五位

男子総合 四位

おめでとーございませす

編集後記

本誌でも取り上げたように、平成九年度当協会が五十周年を迎えます。節目に当たり、広報委員会でも更に誌面の企画・内容の充実を考えていきたいと思ひます。

おわりに、お忙しい中にもかかわらず、快くご寄稿くださいます皆様様に厚くお礼申し上げます。